

焦点

中心市街地活性化は私たちの手で

～ 県内初のまちづくり会社「新庄TCM株式会社」設立～



新庄市役所商工観光課 井上 章

中心市街地は空洞化している

現在の新庄市中心商店街の状況は、個店が空き店舗になるばかりではなく、大型店からキーテナントが相次いで撤退している。昨年は、北本町商店街にある共同ビルからダイエーが撤退し、今年駅前商店街にあるビルから二チイが撤退した。

平成九年より十一年まで、県、市、商工会議所、商店街が中心となり「夢空間リフレッシュ事業」という空き店舗対策事業を展開してきた。これはこれで一定程度の成果を上げてきたが、大型空き店舗を埋めるまでには至らなかった。空き店舗になる原因として考えられることは、県内の事情とそう変わりはないが、車社会の到来により、大型駐車場を持つ郊外店に客足を取られたことに起因する。

三年に一度調査が行われる商業統計調査によると、新庄市の販売係数は県内第一位の五八ポイントとなっており、近年の調査毎に高い比率を保っている。このことは、市内の小売販売業が成り立つ要素があることを示しているのだが、販売額シェアでは、郊外店が七、中心部が三という比率になっている。また、調査ごとに郊外店の占める比率が上がってきている。

サティの出店計画

平成十年マイカル東北が、「新庄サティ」の建設計画を発表した。これに対応するため商店街では、「中心市街地まちづくり検討委員会」を設置した。ただ反対するばかりでは何ら問題の解決にはならない、自分たちの街は自分たちの手で何とかしたいと、非商業

者も仲間に入れて何度か、勉強会を重ねてきた。この間、仙台市に事務所を構える南部繁樹先生より、会津若松市や瀬戸市の実態をうかがい、新庄市でも「TMO」手法により本格的なまちづくりができるのではないかといい機運になった。

まちづくり会社の設立

「中心市街地まちづくり検討委員会」は、TMOになることができる団体となるため、「新庄TCM株式会社設立準備会」・「設立発起人会」を経て、今年四月二日、「新庄ティ・シー・エム株式会社」として創立した。資本金が千六百万円、出資者は二百一名（個人百八十六名・公的団体十五）という小さい会社ではあるが、まちづくり会社としては初めて、一般企業からの出資を得ずに設立した。個人の出資は、最大二口（十万円）までという制限を行い、大口株主を作らず、また役員も公募し、開かれた会社を目指している。

会社の目標 (Goals)

新庄TCMの目標は三つである。

- ・ 訪れる人を増やす
- ・ 働く人を増やす
- ・ 暮らす人を増やす

これらの言葉は、行政を含めて言い古されたものかもしれない。しかし、視点を変えて見れば、

- ・ 観光のため、親戚を訪ねて、また豊かな自然を享受したいがため訪れる
- ・ 子どもの生活する近くで働きたい、働くべきではと考えている
- ・ 街中のほつが暮らしやすい人、公共交通



新庄再発見の旅「新庄駅赤レンガ庫」見学

機関や公共施設、商業施設が集積していないとどうしても住めない

など、このような人々が依然多いのも現実なのではないだろうか。街という機能に期待する需要はまだ高い。

新庄TCMの役割

新庄TCMは、新庄のまちを「働く、生活する、楽しむための快適な空間にする。」ことを役割りとする行動的なタウンマネジメント組織である。まちの活性化に対しても、中心

組 織 体 制

取 締 役 会 長	高 橋 栄 一 郎 (市 長)
代 表 取 締 役 副 会 長	南 田 寿 男 (専 門 店 会 理 事 長 ・ 大 町 商 店 会 専 務)
取 締 役 社 長	井 上 繁 樹 (都 市 構 造 研 究 セ ン タ ー 代 表)
取 締 役 副 社 長	吉 田 洋 一 郎 (新 庄 信 用 金 庫 理 事 長)
取 締 役	石 川 喜 一 郎 (駅 前 商 店 会 理 事)
取 締 役	沼 野 泰 助 (南 本 町 商 店 街 副 理 事 長)
取 締 役	小 松 慈 (山 形 県 NPO 創 造 ネット ワ ー ク 代 表)
取 締 役	羽 森 伸 也 (JC 理 事 長)
取 締 役	小 森 賀 昭 (商 工 会 議 所 専 務)
取 締 役	志 賀 尋 (市 商 工 観 光 課 長)
取 締 役	小 志 義 昭 (安 比 総 合 開 発 株 式 会 社 取 締 役 総 支 配 人)
取 締 役	森 賀 一 (前 山 寺 風 雅 の 国 常 務)
取 締 役	佐 藤 秀 夫 (明 海 大 学 教 授)
取 締 役	藤 岩 滋 (早 稲 田 大 学 教 授)

今年 の 事 業

まず、TMOになるために、「TMO計画」を早急に策定し、市に提出しなければならぬ。今まで検討してきた事業プランを、費用などを含めて実施できるかどうか見極め、年次計画を建てることである。また、同時に、できるものから実施していくことも必要である。先日、市内再発見の旅を行ったが、機関紙「JOGLE」の発行と、「早稲田ベンチャーキッズin新庄」の開催を計画している。新庄の中心市街地を活性化するには、今までの以上の難関が待ち受けていると思うが、TCMに集うメンバーがいる限り、必ずや実現するものと思う。

井 上 章

1958年10月8日生まれ
新庄市役所商工観光課商工振興係長
(中心市街地担当)

6月13日よりロンドンで開催される「タウンマネジャー世界会議」に、新庄TCMの仲間とともに参加予定。

問い合わせ先 新庄TCM株式会社
〒996-0023新庄市沖の町10-18
TEL0233-28-8319 FAX0233-28-8320
E-mail s-tcm@wonder.ocn.ne.jp